

西村大臣記者会見要旨

令和2年8月17日（月）17:12～17:50（38分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101、103会見室）

（大臣冒頭発言）お待たせいたしました。まず感染状況についてであります。

足下の感染状況です。昨日の全国の新規陽性者数は1,017名ということであり、重症者の方が11名増えて243名と。ここをしっかりと見ていかなきゃいけないと思っておりますが、重症者用のベッドは2,838確保しており9%ということであり、全国的に見てまだひっ迫している状況にはないということでもあります。宿泊療養も1,592人おられますが、ここも全国的には1万8,000確保していますから余裕はありますけれども、特に新規陽性者の数が高いレベルで推移すると病床を圧迫してまいります。そうならないためにも宿泊療養が大事になってきますので、ここの数字はよく見ていきたいと思っております。

今の状況ですが、病床利用が全体で26%台まで来ています。そして重症者も少しずつ増えて8.6%まで来ていますので、ここはよく注意をしなければいけないと思っております。

そして沖縄県の状況ですけれども、昨日は60名ということであり、病床は337使用しておりますが、県のほうで443まで確保できているということで、これでいくと76%ということになります。それから重症者用のベッドも21使用しておりますが、47まで確保しているということで、44.7%。そして宿泊療養も340確保していますので、ここもまだ余裕があるということですが、しかし繰り返しになりますが、高い数字で陽性者の数が推移すると、宿泊療養もひっ迫してきますし、何より病床に影響を与えないように、ここをよく見ていかなきゃいけないということでもあります。

そして沖縄には橋本厚労副大臣が行かれて、現地で知事とも話をし、様々な調整を行っております。引き続き高い水準で推移していますので、警戒感を持って見ていかなきゃいけないと認識をしています。

支援策については先般申し上げたとおりですけれども、病床の確保への支援、特に財政的な支援を行っています。そして橋

本副大臣が15日から行っています。政府関係者として厚労省からほかに5人、クラスター班として専門家を4人、DMATも行っています。そして特に看護師さん50名の確保というこ
とで知事から伺いましたけれども、現地で橋本副大臣が各都道府県とも連携をしながら、具体的に調整を進めていると聞いて
おります。

そして万が一に備えてECMO net、ECMOを使う場合に
必要な専門家の派遣もお願いをしているということでありま
す。宿泊療養は340室確保ですが、引き続き支援を行っていく
ということですし、那覇空港では抗原検査を行っているところ
であります。水際での検査体制を実施しております。そして既
にサージカルマスク、N95マスクなども一定数届いております
ので、引き続き必要な防具など支援を行っていければと考
えております。

いずれにしても病床を443、重症者ベッドを47確保している
ということではありますが、引き続き沖縄県ともしっかり連携を
取りながら、病床の確保、しっかりと命をお守りするところを
支援していければと考えています。そのための必要な人員の確
保等を、橋本副大臣が現地で中心となって行っているところ
であります。

それから大阪の吉村知事とも電話会談をいたしました。大阪
の状況ですが、8月16日で新規陽性者147、病床も1,257確保
して551使っており、重症者が72名、ここが少し多くなって
きております。東京の25と比較しても多い数字でありまして、
ベッドは188確保していますけれども、ここをしっかりと見て
いかなきゃいけないということでもあります。病床の確保に全力
を挙げていくということでもありますし、国としてもこの部分を
しっかりと支援していければと考えています。

特にコロナの重症患者を受け入れる病院に対する、さらなる
支援ということ言われております。これについては、既に総
理も長崎での会見で「医療機関の状況を十分に踏まえつつ、必
要に応じてさらなる支援も検討したい」ということで発言をさ
れておられます。状況をしっかりと踏まえながら、厚労省を中心
にしっかりと対応していければと考えています。

それから専門家の皆さんとお話しすると、まだいわゆるデー
タとしてしっかりと整理ができていないわけでは無いんですが、
臨床の現場でコロナ感染症の患者さんに対応しておられる現場

の声として、かなり治療法も定着してきているということでもあります。既に承認をしたレムデシビル、それからデキサメタゾンといった薬もありますし、やはり1回目の経験を踏まえて、かなり重症化された方への対応も含めて定着をしてきているという中で、前回の緊急事態宣言のときと比べて、かなり改善がなされてきているんじゃないかということが言われています。このあたりがデータでしっかり出てくればいいに思っておりますので、専門家の皆さんに引き続きこうした患者の方々のデータの整理、分析などをお願いしているところであります。

こうした治療法などの定着は、かなり学会などでも共有されていると聞いていますけれども、大阪もこういう形で重症者の数が多いですから、われわれからもそうしたことの共有ができるように対応できればと考えています。

高齢者の感染者も大阪で増えているということでもあります。病院とか高齢者施設でもクラスターが発生していますから、その分の数が増えているところもありますので、いずれにしても重症化するリスクの高い高齢者への対応、それから病床の確保、こういったところで引き続き連携を取りながら、命をお守りするということに万全を期していきたいと考えています。

それから感染拡大防止の取り組みの一環として、今般、読売ジャイアンツの菅野選手、丸選手、岡本選手、田口選手に協力をしていただき、メッセージ動画を作成いたしました。内閣官房のホームページに掲載しておりますが、短いので、見ていただければと思います。4人の選手からメッセージをいただいて、多くの方々がマスクの着用、手洗い、3密回避、こういったことに努めて、新たな日常が定着するように期待をしたいと考えています。私からは以上です。後で音が出れば見ていただきます。

（問）イベントの開催制限やワクチンの関連についてなど、今後の分科会での検討の見通しですとかスケジュール的なもので、大臣が今お考えになっていることをお聞かせください。

（大臣）新型コロナウイルス感染症対策の分科会におきましては、現在、8月下旬で開催することを調整いたしております。御指摘のように一つはイベント開催の制限について、8月いっぱい上限5,000人ということに継続しておりますが、これについてどう考えるかということについて御議論いただきたいと思

っています。当然今の感染状況の分析をしっかりとやっていただいで評価をいただき、その上で御判断をいただくこととなります。9月1日以降どうするかということの御議論をいただければと考えています。

それからワクチン接種についても、海外で開発されるワクチンについての確保など進んでおりますので、これまでの何回かの議論も踏まえて、また、新型インフルエンザのときの議論も踏まえて、引き続き御議論をいただきたいと考えています。冬以降にワクチン接種が可能となった場合に備えて、どういう考え方に基づいてどういう順位で打っていくのか、そのあたりも含めて御議論いただければと考えています。具体的な日程については調整中であります。

(問) 昨日 16 日、東京都の新型コロナウイルス新規感染者が 260 人で、5 日連続の 1 日 200 人超えとなっております。また、沖縄では人口 10 万人当たりの新規陽性者数が全国最多の状況が続いており、神奈川県では 8 月 15 日に 1 日当たりの感染者数として、過去最多となる 136 人の感染が確認されています。このように日本各地で新型コロナウイルスの感染が拡大しているように見受けられます。

また本日、内閣府が発表した 2020 年 4 - 6 月期の GDP の速報値は、季節調整値で 1 - 3 月期比で 7.8% 減、年率換算では 27.8% 減となっており、リーマンショック以来の戦後最大の落ち込みであると言われております。これらの状況はテレワーク率 70% など企業への自粛要請と、「Go To Travel」など経済活性化のための施策を同時に進めるという政府の政策が招いたもので、二兎追うものは一兎をも得ずということではないかと思いますが、西村大臣の考えをお聞かせください。

あともう 1 点。大阪府では 15 日に重症者が 70 人となり、過去最多だった 4 月の 65 人を上回りました。東京都の重症者はここ数日 20 人台で推移しています。PCR 検査数や新規感染者数は東京のほうが多いことを考えると、大阪府は検査数が足りていない、また、実際の市中感染はより深刻なのではないかと予想されますが、これについて大臣はどのようにお考えでしょうか。よろしく申し上げます。

(大臣) まず日本全体の数字も先ほど申し上げましたけれども、

引き続き高い水準での新規陽性者の数が報告されていますので、引き続き警戒感を持って見ているところであります。特に分科会から示されました6つの指標について、特に医療の提供体制のところをしっかりと見なきゃいけないと思っております。御指摘のように病床確保が東京も40%台、大阪も40%台。沖縄は76%ということで非常に高い数字になっておりますので、こうしたことを受けて、沖縄には橋本副大臣を派遣して現地の調整に当たってもらっています。

特に重症者も御指摘のように、先ほど申し上げた大阪も72名ということで、38%の病床を使っているということでもあります。繰り返しになりますが、沖縄も44%ということで、このあたりの状況をしっかりと見ながら橋本副大臣を派遣し、また、私も大阪府知事と電話会談を行って、こうした警戒感、危機感を共有しているところであります。連携しながらしっかりと命を守るというところ、病床の確保、そしてあわせて必要な人員の確保、看護師さんが足りないという沖縄の要請にも応えていけるよう知事会にもお願いをしながら、また、看護協会にも御協力を求めながら、対応していければと考えています。

感染状況についてはこうした高い水準で推移しています。いろんな要因があると思います。クラスターがあちこちで発生しているところに、飲み会、会食、それから大学、高校などの運動部、あるいは寮、合宿、こういったところで以前と同様の、同じようなやり方でやっていれば当然感染は広がりますので、それぞれに新しい生活様式、3密を回避してマスクをし、消毒をする。あるいは飲食のときもこういうアクリル板を活用してもらうとか、様々な工夫をしていかないと、リスクはゼロにはできませんので、感染は必ず起こります。広がります。

ですので、事業者の皆さんにはガイドラインを守っていただくと同時に、それには支援も行っていくますし、そしてさらにはお一人お一人の御努力、工夫をお願いしたいと。3密を回避して大きな声を出さない。あるいは換気のいいことを確保していく。ずっとこどもドアを開けて会見を行っていますけれども、やはり空気の流れが大事でありますので、ぜひ距離をとりながら、また換気のいいところでマスクをして話をする、大声を出さない。こういったところを徹底していければなと、お願いできればと思います。

あわせて感染者が出たときにすぐに連絡がとれるように、接

触確認アプリの「C O C O A」のインストールもぜひ引き続き
お願いしたいと思います。1,300万件を超えてきましたので、
かなりの方に御理解をいただいております。この後、巨人軍の
田口選手からもまたお願いをしてもらいますけれども、ぜひ多
くの人にインストールしていただければと思います。

また、それぞれの県でやっているQRコード、読み取りによ
る通知サービスですね。それぞれのイベントやお店で、そこで
QRコードを読み取って、発生があったときに、陽性者が発生
したときにちゃんとそこにいた人に通知がいくという仕組み。
これも有効ですので、ぜひこうしたことを活用していただけれ
ばと考えています。

こうしたことを積み重ねることによって感染防止策と、そし
て経済社会活動との両立が可能になってきますので、みんな
で「新たな日常」を作っていくと。昔の日常、以前の日常には戻
さない、戻らないということが大事だと思います。

企業の皆さんにもテレワークをお願いしておりますし、オン
ラインの決裁、オンライン会議、ウェブ会議、これも引き続き
お願いしたいと思います。また、それができない中小企業の皆
さんには、様々なテレワークなどの補助金も用意をしておいま
すので、御活用いただければと考えております。「新たな日常」
をみんなで作っていくことによって、経済活動、社会活動との
両立が図っていければと考えているところです。

大阪の状況についても、今申し上げましたけれども、高齢者
施設や病院での院内感染が、クラスターが発生していることな
どもあり、高齢者の感染者の数が多く、また重症者も多い
こともあります。警戒感を共有したところでもあります。そうし
た治療法なども、もう既にそれぞれの学会でも共有していると
ころと聞いておりますが、こうしたことも含めて、大阪とも連
携をしながら対応していければと考えています。

いずれにしても、何とか、何とかこの増加傾向を減少傾向に
できないか、引き続き全力を挙げて連携しながら取り組んでい
ければと考えています。

用意できたかな。ちょっと巨人軍のやつを出してもらえます
かね。

じゃ、もう一問だけ誰か手を挙げておられたかな。先にやり
ましょう。

(問) さっき大臣おっしゃっていたその重症化率、死亡者が減っているという、治療法というお話がありましたけれども、専門家の先生方の中で、やはり弱毒化というような議論もあるのかどうか、微妙な話ですけれども、それから伺いたいと思います。

私が今日、むしろ御質問差し上げたいのは、むしろ経済のほうなんですけれども、GDPのいわゆる大臣の発表があった後、立憲の野党第一党からは、歴史的なGDPの落ち込みというのは、アベノミクスの失敗を示しているんだと。1年余り前から景気は既に息切れをしていたんだと。そういう中で消費税をいわゆる引き上げて、景気が悪化しているところに今回のコロナが来たから、もってしてだからこのGDPが下がるというのは、まさにそのアベノミクスの失敗の帰結だと。そういう論法なんですけれども、検査入院された安倍首相は、多分怒られるんじゃないかと思うし、この論法で言いますと、経済再生とコロナ対策を両立しろという、大臣の立つ瀬もないと思うんですけれども、コロナの不確実性ということを考えたら、私は非常に暴論だと思うんですけれども。そういう意味で、今回のGDPの落ち込みというのは、アベノミクスの失敗の帰結であるとお考えになっているのかどうか、それをお伺いします。

(大臣) 朝のあれは出せるのかな、画面を用意してくれるか。

まず、1点目の弱毒化については、これも何人かの専門家の皆さんとも何度かこのところ議論をしてきていますが、今のところ、それを示すエビデンスはないというふうに、専門家の皆さんからは聞いております。もう御案内のとおり、2週間に1回ぐらいのペースで進化をしていくと、変容していくということのようでありましてけれども、現時点で何か弱毒化しているということを示すエビデンスはないということでは聞いております。

他方、繰り返しになりますが、かなり治療法は定着してきたのではないかとということで、専門家の皆さんも現場の声としてお聞きになられています。何かもう少しエビデンスとして出せないかということで、そのことについてはお願いをしているところであります。

それから、2点目の経済との両立については、先ほど来申し上げておりますとおり、コロナについていえば「新たな日常」を、

どうやってみんなで工夫しながら作っていくのか、構築していき、またそれを定着させていくのかと。テレワークもそうありますし、オンラインでの様々な活動もそうだと思います。また基本的な3密を回避するとか、手間はかかりますし、コストはかかりますけれども、こういったアクリル板を活用するとか、熱中症との関係もありますので注意しなければいけませんけれども、マスクを着用する、消毒をする、こういったことが何より大事だと考えています。

アベノミクスについて言えば、この間、今朝もちょっとお示しをしました。GDPの数字は2018年10月が山ということで評価をいただきましたけれども、これまでのデータではずっと上向いてきておりましたし、我々が重視をしてきた雇用の状況、それから雇用者の総報酬、働いている人みんなの日本国全体の雇用者の所得、こういったものを見ると、そうしたものを背景に消費は一定程度堅実に推移をしてきたと見てきていますし、10月の消費税増税に際しては、それを前回の増税のときの、引き上げのときの反省、教訓に立って、十分な予算を組んで、そしてその影響が最小限になるように対応してきました。

これは、消費税増税分、引き上げ分のうち約半分を幼児教育・保育の無償化に使うということも含めて、さらに弱い立場の方々への年金の支給金であるとか、介護保険料の引き下げを行いました。更にはキャッシュレスのポイント還元であるとか、様々な対応で、この負担を軽減していくべく対応してきました。消費税率の引き上げに加えて台風の影響とか、様々なありましたので、あるいは暖冬の影響もありましたので、10-12月期は非常に厳しい数字になりましたけれども、1月から2月の消費の水準を含めて、非常に高い水準で、いわば消費税率引き上げの影響、家計の消費ですね。

これを見ていただいたらわかっていただけると思いますけれども、確かに過去3年の幅の中から10月期は消費税率の引き上げもありましたので落ちましたけれども、その後のこの消費の状況を見ると、この間、10月から11月にかけて台風の影響とか暖冬の影響もあって少し落ちました。しかし、12月から1月にかけては、非常に高い水準の消費水準で、1月も過去3年の幅よりも上振れるぐらいの勢いで2月にかけてはありました。

ところが、2月の中国・武漢での感染拡大などを受けて、いわゆる中国からのインバウンドなどの減少を含めて、ここから

3月、そして4月、5月と非常に厳しい状況にあったわけですから。そういう意味で、消費税率引き上げの影響は当然ありましたし、このことはある程度想定もしておりましたけれども、その影響がこの12月末から1月にかけては薄らいできているという、非常に高い水準での推移がございます。これはその前の前のページ、さっきの水準があるかな。

家計支出の水準も、4月、5月は何度も申し上げますけれども、緊急事態宣言のもとで低かったわけですが、1月－3月期、1月、2月はかなり消費税率引き上げの影響も薄らいできて、それなりの水準で推移をしてきておりました。3月以降かなり落ち込んだわけでありましてけれども、その後、6月はかなり戻しておられます。そういう意味で、2018年10月が山だというふうに、これは景気の一致指数から見て、製造業中心の数字で、サービス業とか雇用とか、あるいはGDPとか、公共投資とか、こういったものを含まない、限られた限定された指標で山といわれて評価をされて、もうこれはそういうルールでやっておりますので。残念ながら戦後最長の記録には及ばなかったわけですが、あわせて景気の判断をするに当たって、その指数もこのサービス経済化が進む中で、今申し上げたような指標が入っていない中で決められてきましたので、見直しを行うということも経済学者の皆さん方の間でも一致をしたところでもあります。

したがって、アベノミクスが取り組んできた、まさにデフレからの脱却に向けて三本の矢を講じてきたこと、これは、私は正しい道筋、道であったと思いますし、その結果としてデフレでない状況を作り上げ、そしてデフレ脱却に向けて着実に進んできたものと考えています。

そうした中で、残念ながらコロナのショックがあり、これはもう世界経済全体が大きな影響を受けたわけでありまして。大変厳しい数字ではあります。しかし、先ほど申し上げたように、6月、7月、かなり改善の新たな兆しが見えてきております。設備投資もソフトウェアを中心にぜひ新しい経済社会が進展するように期待をしたいと思いますし、私はここからが本当に正念場だと思います。ぜひ昔の日常に戻さない、このコロナの経験、これを未来に活かしていくと。みんながその思いで新たな経済社会を作っていければ、必ず成長軌道に戻り、そして再びデフレ脱却に向けた道筋をしっかりと歩んでいくものと考えて

おります。今、厳しい状況ですので、苦しい状況にある企業や家計、これをしつかりと支えながら、しかしその中から新しい芽が私には出てきているものと思いますし、いろんなベンチャー企業も、非接触型、オンラインでのベンチャーも出てきております。こういったことをこういった企業をしつかりと応援をしながら、新たなデジタル化の中で、いろんなサービスやいろんな商品が生まれてくるように、ぜひ応援をしていきたいと考えています。

（問）先ほどもありましたけれども、ちょっとコロナとは離れるんですが、今日総理が慶應大病院に入られました。体調についてはいろいろ言われていますが、大臣としてこの間、聞かれている総理の体調について御見解をお伺いします。

（大臣）今日はこの休みを利用しての定期健診だと伺っておりますので、それ以上の詳細は聞いておりません。日々総理とも接しておりますし、この間、お盆の間も総理からもお電話、土日も含めていただいたり、感染状況はどうなっているということとで質問をいただいたり、様々私なりに報告もさせていただいております。

そういう意味で、総理は、私は体力、気力とも充実をしておられるという認識をずっと持っています。特に幅広くいろんなことを、以前と比べて会食の機会などは減っているのだと思いますが、いろんな方から恐らくメールなり、総理の幅広いネットワークの中で、いろんな意見を聞かれていると思いますので。よく2人のときも、また電話でもこういった意見があるけれどもどう思うかと、状況をどう分析しているのかということも聞かれますので、私は総理自身、やはりこの今のコロナの感染状況を常に頭に置きながら、いろんな幅広い方の意見も聞きながら、問題意識を、強い問題意識を持たれて取り組まれているというふうに、これはもう本当に強く感じています。

だから、私自身も家においても緊張感をずっと持っています。常に数字も頭に入れておかなければいけないので、そういう意味で、総理がそれだけの思いを持って取り組まれていますので、私自身も改めて国民の皆さんの思いに、本当に何とか減少させたいと、感染者をこれ以上増やしたくないと、減少傾向にさせたいと、そして経済・社会活動と両立をさせたいと、生活、事業、これを安定させていきたいと、さらに発展させていきたい

という思いに絶対に応えないといけないと、そういう決意で臨んでいるところでもあります。

そういう意味で、総理自身について何か私自身が心配しているとかいうことは全くありませんので、むしろ強い問題意識を持たれて取り組まれているということ、日々感じているところ、

動画はいけますか。

(動画音声) 新型コロナは、すきがあれば攻めてきます。特に若い人を中心に感染が広がっています。

今、必要なのは一人一人がリスクの高い行動をしないこと、感染を防ぐ行動を続けることです。

移動時にはマスクをつけ、手を洗う、3つの密を避ける。僕たちも守っています。

あなたの行動があなたとあなたの大切な人を守ります。C O C O Aをダウンロードすることも大切です。新型コロナに負けるわけにはいきません。

皆さん、一緒に頑張りましょう。

(大臣) ということで、ボランティアで御協力をいただいております。本当に感謝申し上げたいと思います。できるだけ多くの方に御理解をいただきながら、高齢者の皆さんは、とにかくこれまでの経験からいってリスクがありますので、お気をつけいただくということでもありますけれども、若い人も、自分たちはもう若いから大丈夫だということではなくて、中には重症化する人あるいは後遺症が残る方もおられます。そして、友人や家族や、様々な経路を通じて高齢者にたどり着いていきますので、ぜひ若い人も含めて、全ての皆さんに、今メッセージをいただいたような基本的な感染防止策を講じていただいて、そしてできるだけ多くの方に接触確認アプリ「C O C O A」をインストールしてもらえればと。クラスター対策、濃厚接触者が早くわかって、効率的にこれを封じ込め、コロナを封じ込めることができますので、ぜひ御理解をいただければと思います。

改めて、巨人軍の協力いただいた選手の皆さんに感謝を申し上げます。ありがとうございます。